

# 足もとの米国株式のバリュエーションについて



※ 2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。



金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第387号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# 足もとの米国株式のバリュエーションについて

- 米国の主要株価指数は足もとで過去最高値を連日で更新するなど非常に好調に推移していますが、上昇ピッチの速さを警戒している投資家も増えてきているようです。
- 右のグラフは米国の著名投資家ウォーレン・バフェット氏が提唱している株式市場の割高・割安を判断する指標（バフェット指標）です。米国の株式時価総額を米国の国内総生産（GDP）で割った値を%で表記したシンプルな指標です。
- 一般的にバフェット指標が100%を超えると株価が「割高」とされています。当該期間において指標値は概ね50%～150%の間で推移していましたが、2月12日には196%まで上昇しており、株価が「非常に過大に評価」されている警告と捉えることもできます。
- ただ、バフェット指標も株式市場の価値を判断するツールの一つに過ぎません。GDP統計にまだ表れていない、無形資産の評価や業績の成長見通しなどを反映した株価上昇がバフェット指標を押し上げている可能性もあります。



# 足もとの米国株式のバリュエーションについて

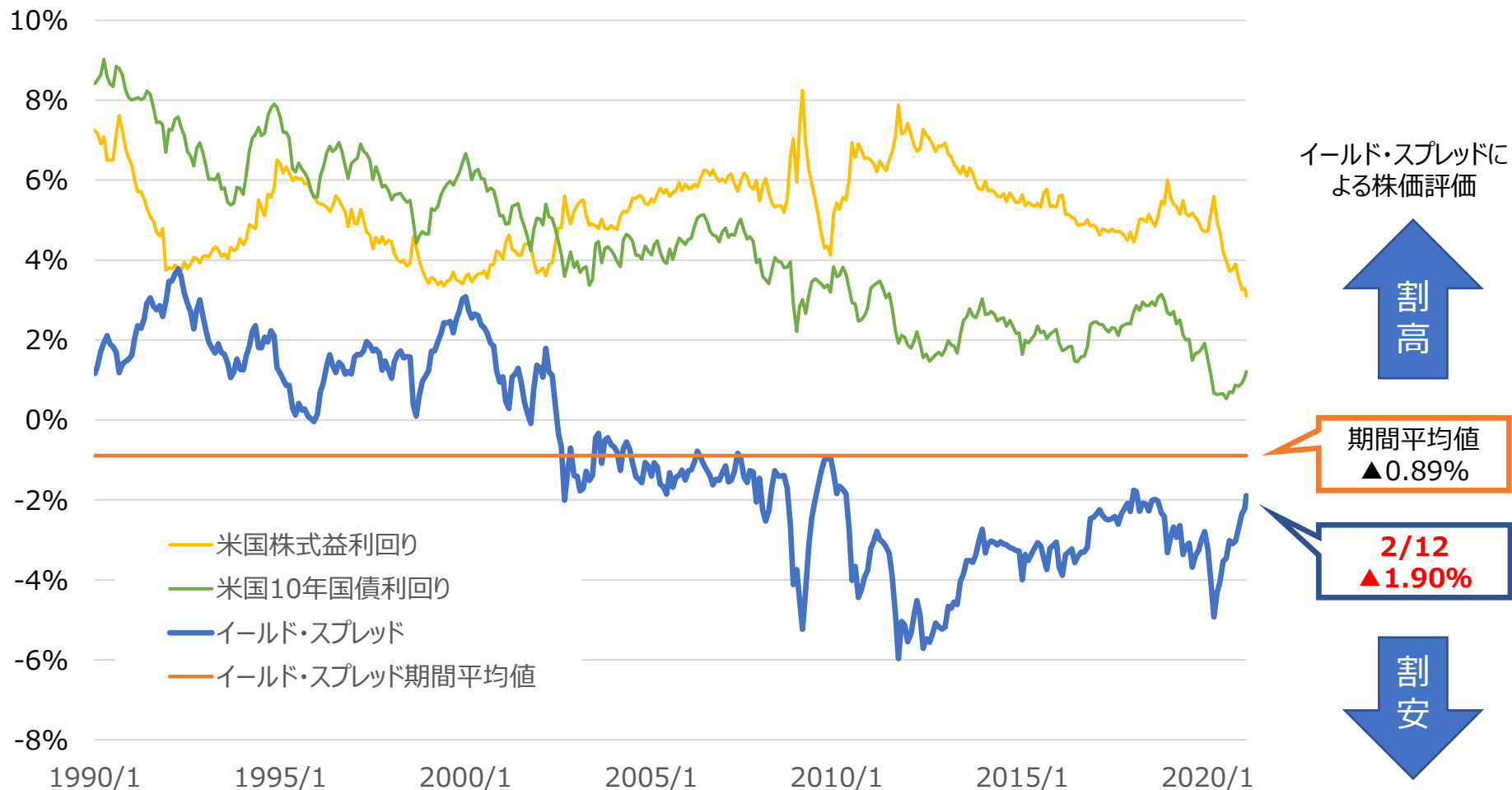
- バフェット指標には「企業の無形資産評価」や「企業の成長力」などの他、「金利水準」の要素を反映していないとの意見もあります。

- 金利水準と株価の関係に着目した指標としてイールド・スプレッド（米国10年国債利回り－株式益利回り）があります。右グラフ表示期間の平均値は▲0.89%ですが、2月12日は▲1.90%と平均を下回る水準にあり、株価は必ずしも割高とは言いきれません。

- 米国株式のボラティリティ・インデックス（VIX）が2月12日に終値ベースで昨年2月以来初めて20を下回るなど、投資家心理は強気に傾いています。一方、前ページのバフェット指標のように、株価の割高さを示唆する指標もあります。

- 想定外の金利急騰や新型コロナ関連の失望等の悪材料によって、短期的に株価が調整する局面があるかもしれません。

【米国10年国債と米国株式のイールド・スプレッドの推移】  
(期間：1990年1月末～2021年2月12日、21年1月末まで月次データ)



## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

使用している指数等は以下の通りです。（すべて現地通貨建て）

バフェット指標：算出に使用した米国の株式時価総額は、ウイルシャー5000トータル・マーケット・インデックスのメソドロジーに基づき当社が推計

米国株式益利回り：S&P500種株価指数（S&P500）の株式益利回り（PERの逆数）

米国株式のボラティリティ・インデックス（VIX）：CBOE-S&P500ボラティリティ・インデックス

出所：ブルームバーグ、ウイルシャー5000ホームページ